

未来も「今」も大事

校長 武井 正明

先日、ある研修総会で、3分と予定されていた最後の挨拶が20分以上余ってしまった。昨年も同じ会で25分以上余って、時間繋ぎに難儀したので、今回は事前に小ネタも準備していた。しかし、私は噺家ではない。開始から時間が気になって仕方がなかった。

そして、どんどん議事は進み、やっぱり時間が余り、私の閉会挨拶となった。用意していた通り、話を進めはするが、こういう時、時間の進みというのはこれでもかというほど遅いものだ。もがけばもがくほど、時間は埋まらない。1分が長い…。時間を繋ぐことに必死になって、私の挨拶は終わった。とにかく時間は、繋いだ。

休憩を挟んで、来賓を招いての講話が行われた。

私も尊敬する、同期の校長先生のお話しの中で、特に印象に残ったのは、変わっていく時代に、周囲の流れを見ながら、自分の理想と課題を常に胸に留め置いて、自分が実現したい教育、学校を強かに創っていく、という心の姿勢であった。

その後の懇親会で、杯を合わせながら、その校長先生に私は「自分は『黄昏はまだ遠く』って心境ですが、先生はいかがですか？」と問い掛けた。

その問いに、

「俺はもうやったな。もうやり切った。うん、もう、することはないよ」と仰った。

自分に妥協せず、務めてこられた人だからこそ、爽やかな言葉だと思う。

未来に向けての努力に注力するあまり「今」がおざなりになってしまう。最も大事なものは、未来と同じく「今」なのだ。これも、この方が講話で仰った言葉だ。

果たして、今の自分はどうかろう。

気ばかり焦って、ついつい目先のことにばかり、目を奪われてはいないだろうか。

最も大切な「今」に対して、自分は丁寧誠実に相對しているのだろうか。

歓談の際、私の話を録音してくれていた先生が、こう仰った。

「武井校長先生のお話、ジェミニが『時間がいっぱい余った中で、ユーモアを取り入れながら、上手に話しをまとめていました』と褒めていましたよ」

ジェミニ…実在しないAIに向かって、思わず「ジェミニっ!!」と叫んでいた。

嬉しかった…。僕は時間を埋めるのに、本当に苦勞したんだよ。それをジェミニだけはわかってくれていたんだね。ありがとう、ジェミニ…

一瞬、苦勞が報いられたような気持ちになった。ふと我に返る。おそろべしAI。今後、ジェミニとの付き合い方は、慎重にいかないと、ちょっとコワイ…。